

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601735	事業の開始年月日	令和2年9月1日
		指定年月日	令和2年8月28日
法人名	一般社団法人 東林間 輝		
事業所名	グループホーム 東林間 輝		
所在地	(252-0311) 神奈川県相模原市南区東林間5-6-21		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和3年7月13日	評価結果 市町村受理日	令和3年10月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>理念</p> <p>①あなたの笑顔がみたいから</p> <p>②真心と安心のある介護をめざして</p> <p>③地域に根ざす家族愛</p> <p>1. 理念に沿ったサービスを提供するようにしている</p> <p>2. 職員が元気で明るく働ける環境づくり</p> <p>3. ボランティアや家族の出入りが多い（コロナ禍ではなかなか出来ず）</p> <p>4. 旬の食材を使った献立、手作りで家庭の味を提供している</p> <p>5. 医療連携ができています</p> <p>6. 入居前の習慣を失わずその人らしさが活かされる生活を目指している</p> <p>7. 持っている力を最大限に引き出す関わり方をしている</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年9月11日	評価機関 評価決定日	令和3年9月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急江ノ島線「東林間」駅から商店街を通り、徒歩2分ほどの所にあります。建物は鉄骨造り3階建てで、1階には同一法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所があり、2階・3階がグループホームとなっています。なお、現法人は令和2年9月に前法人より独立し、一般社団法人となっていますが、理念や事業内容は以前と変わらず継続して運営を行っています。

<優れている点>

事業所理念の「1. あなたの笑顔がみたいから」「2. 真心と安心のある介護を目指して」「3. 地域に根ざす家族愛」は、利用者にとって忘れることがあっても、笑顔が見られる関わりをするために、開所時にスタッフ全員で考え創っています。コロナ禍、地域との直接交流は自粛していますが、うがい、手洗い、マスクの着用など徹底した安全対策を取り、職員と一緒に食材の買い出しや、花見、鯉のぼり、阿波踊りの見物などに出掛けています。また、家族や知人との面会をガラス戸越しや、屋上で行ったり、施設内で出来るレクリエーションを積極的に行うなど、利用者の不安に寄り添いながら共に生活をしています。

<工夫点>

調理専門の職員が、美味しい食事の提供をしています。LINEを活用し家族との連絡を取りやすくしています。職員が疲労やストレスを溜めないように、休日の確保や連続勤務の可否などを考慮し、シフトを組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 東林間 輝
ユニット名	2F

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	輝の理念である「1. あなたの笑顔がみたいから」「2. 真心と安心のある介護をめざして」「3. 地域に根ざす家族愛」を各ユニットに掲示し職員がいつでも理念に基づき自分の行動に照らし合わせながら従事している。	事業所の理念は、忘れることがあっても、利用者が笑顔になれる関わりをする持つために、開所時にスタッフ全員で考えています。行動に迷ったら、いつでも理念に立ち戻るよう心掛けています。理念はフロアごとに目の付くところに掲示しています。	
2	2	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会、東林間商店振興組合に加入している。またコロナ禍になる前は「サロン輝」を開催し地域の方々にも参加いただき、商店街のゴミ拾いにも参加していた。残念ながら今はできていない。	自治会や地元商店振興組合に加入し地域と密接な関係を築いています。コロナ禍の為、祭りへの参加やレクリエーションボランティアの来訪など、地域との直接の交流は見合わせています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍になる前は毎年、地域包括主催のグループホーム見学会を兼ねて認知症に対する支援などをご説明していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため運営推進会議は行っていない。そのため、施設内の報告を会員には手紙で行っている。	運営推進会議は自治会長、家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、東林間商店会会長が出席して開催していましたが、現在は新型コロナウイルスの影響で行っていません。なお代替措置として、施設の状況は2ヶ月に一度、文書で報告をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険課、福祉基盤課及び生活支援課等の行政窓口との連絡を密にしている。	介護保険の更新や生活保護者関連の相談、更には事業所の運営上の問い合わせなど、行政の担当窓口とは常に連絡を取っています。市のグループホーム連絡会に加入し、研修への参加、空き室状況や利用者の紹介、困った事の相談など共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	委員会4回と一般研修2回を定期的に行い身体拘束について理解を深め日常のスピーチロックも含め身体拘束をしないケアに努めている。玄関は外に出るとすぐ階段であり又降りた先も車通りの多い所である為、この対応も身体拘束になることも意識しているが安全面を考慮しすぐに開錠出来るもので施錠している。	「身体的拘束適正化検討委員会」を年4回、周知研修を年2回実施しています。毎月のフロア会議でも取り上げ、具体例を出して、どのようなものが身体拘束に当たるのか、また、その弊害についても理解を促しています。職員はセルフチェック表を使って自身の行動をふり返り、身体拘束をしないケアに役立てています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修を実施し虐待防止を学び、注意を払っている。また報・連・相が大切であることを各職員に徹底している。	昨年は虐待に関する勉強会を2回実施しています。また虐待を見逃ごすことがないように、職員相互に注意し合える関係の維持に努めています。管理者は職員の疲労やストレスがケアに影響を及ぼさないよう、不安を聞き取り解消に向かうようアドバイスをしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修のみならず外部研修に参加することで職員の理解を深めている。身内のいない入居者様には成年後見人制度を申請利用した。また、利用しているご家族の相談にのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者様、ご家族に対し十分な説明を行い契約している。改定時には家族会にて説明し、欠席者には文書で知らせていたがコロナ禍のため文書を送付し同意を頂いている（口腔ケア加算）		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会は年に一回開催していたがコロナ禍の為開催出来ていない。家族会では意見交換の場を設け、改善できる点は改善していた。計画作成者が家族と面談時に説明をしご家族の意見を取り入れている。ご家族へ手紙とメールのやり取りをして意見交換している。	コロナ禍中の為、利用者の様子を毎月家族に写真入りで「介護報告書」として届けています。また、家族との面会は少人数で屋上を利用し行っています。家族からの意見や要望はLINEの活用も行っています。希望があれば画像等で日頃の様子を発信しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議、フロア会議、個人面談において職員の意見・提案を聞いている。	職員の意見や提案は、年2回の個人面談や毎月のリーダー会議、フロア会議で収集し対応しています。また、日々の情報は連絡ノートを活用し、共有に努めています。ケアの具体的なやり方は職員の意見を確認しながら行っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回個人面談を実施。また状況に合わせて随時面談を行い環境整備に取り組んでいる。勤務状況の把握は一日一回現場に入り確認している。有給休暇に関しては全職員が習得できる環境になるよう心掛けている	就業規則は、いつ、誰にでも手に取って閲覧ができるように、各フロアの事務所内に吊り下げてあります。休日の確保と、ストレスがたまるような業務の連続勤務はなるべく避けてシフトを組んでいます。誕生月には祝い金を支給し職員から喜ばれています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修にオンラインで積極的に参加し人材育成に努めている。	外部研修の受講者は、希望者を中心に職位や経験を考慮しながら選定しています。また経験の浅い職員には、リーダーやサブリーダーが助言を行うよう体制を整えています。また、リーダー以上の職員は、一般職員に対する接し方について社内研修で学んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在は開催していないが、グループホーム連絡会に参加し情報交換と質の向上に努めていた。またグループホーム連絡会では見学会も実施していた。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員が事前に訪問した際、本人の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている。経過ともに改善すべきところは改善し希望に沿ったサービスに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談時に御家族の意向を確認し要望に沿った介護に努めている。また出来ること出来ないこともお伝えし誤解が生じないように説明している。そういう中で理解し信頼が深まっていると感じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で収集した情報を活かし介護サービスに反映させるだけではなくインフォーマルサービス等の確認も行っている。経過とともに改善すべき点は改善している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の過ごしてきた環境を出来る限り維持できるサービスに努めている。ご協力いただける部分は協力いただく様お願いし男性・女性に関係なく持っている力を発揮していただくようにかかわっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会や面会にいらしたとき、日常生活を見ていただきながら楽しいエピソードなどをお伝えしている。また御家族との会話に介入するなどし御家族が安心して帰られるようにしている。病院の受診などは可能な範囲でご協力いただくように相談している		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ対策をしっかりと行い、馴染みの関係が絶たないように協力している。ご友人来訪時には並んで記念写真を撮ったり外食の支援をしている。生活歴や会話などを参考に大切な場所にはお連れしたい（お墓参り等）がなかなか実現できていない	コロナ禍であっても、古い友人や知人との関係が途切れないよう、ガラス越しや屋上でソーシャルディスタンスを取っての面会に切り替え支援しています。外出がままならない中、麻雀など利用者の好みに合わせたレクリエーションを職員が中心となり行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	要介護1から要介護5の入居様が各々孤立しないように席の工夫などを行っている。また馬鹿にしたりされたりしないよう職員が仲介して入居者様同士の関わり合いを増やす機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も御家族から相談・報告のご連絡ある。その後の特養・入院先にご様子を見に行ったりしている。また葬儀にも参列させていただいている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関りの中からその方の思いや希望をくみ取るようにしている、職員・御家族と情報の共有をし職員本位のものにならないように気を付けている	職員は日常の行動や表情の中から、利用者の意向や希望を汲み取るように努めています。意向や希望は介護記録や業務日誌、連絡帳へ記録し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各入居者様の暮らしの希望、意向を把握し、職員は情報の共有をして生活リズムが変わらぬように努力している。手作りヨーグルトや仏壇のお水替え等ご本人も一緒に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタル(体温・血圧・SP0 ₂)をとっている。一日の過ごし方など、朝夕申し送りをして現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護職員いの思い込みとならないようにフロア会議・ショートカンファで話し合っている。ご家族・医療関係者の意見も反映させている	入居時に利用者・家族と話し合いアセスメントし、医師の意見を参考にして介護計画を作成しています。職員はフロア会議やショートカンファレンスでモニタリングを行い話し合っています。見直しは通常1～3ヶ月ごと、または状況の変化に応じて行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子は個別の記録をしており、PDCAなどヒントがあるときにアンダーラインを引いている。入居者様の状態によっては別の記録用紙に一時的に代えて「見える化」にし情報共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族に代わり通院介助・車での送迎を行っている。お孫様の結婚式にも同行し参列頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	花見や阿波踊りなどのイベントに参加できるよう地域のボランティアの協力を得ながら支援している。地域包括で行われている100歳体操に参加していた。コロナ禍が落ち着いたら継続して行きたい		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医往診時には毎日のバイタル・食事飲水量・トイレ回数等記入してある表を見ていただき普段の生活・身体面等様々なことを報告をしている。状況、状態によっては他医療機関へ早期につなげるなどご家族様からは安心していただいている。主治医は夜間・早朝にも拘わらず迅速に対応をしてくださっている。そのため、ご家族の意向に沿ったご本人様らしいお看取りもできた	協力医療機関の内科医が月2回、歯科医は随時往診しています。本人や家族の希望する入居前からのかかりつけ医による医療を継続して受診できるように支援をしています。医療情報は個人別の医療連絡帳に記録し、職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間対応の訪問看護とクリニックを利用している。看護職員には関りの中での精神的・身体的等の変った点などの気づき、薬の変更等を含め報告相談している。医療と介護の連携が取れるように医療連絡ノートを記入し情報の共有をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は御家族だけではなく日常の様子が見える職員が付き添いをしている。また介護サマリーなどの提出もしている。お見舞いに行き病院関係者からの情報収集し輝の主治医にも報告している。出来るだけ輝での生活に戻れるように支援している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の在り方について意向を伺うようにしているが今後全員に聞く必要がある。意向に沿いながら輝として出来ること出来ないことを説明し、輝・ご家族・医療職とチームで支援できるように取り組んでいる。今年の6月にお看取りを行った。	入居時に重度化や終末期の在り方についての指針を説明しています。重度化や急変時には医師と相談し指示を仰いでいます。本人・家族の意向に沿うような終末期を迎えることができるように、関係者間で共有しています。看取り介護の勉強も実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒事故や急変時に行わなければならないことや救急車要請時の報告の仕方・持ち物など、いざというときに対応できるように確認している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年春・秋の2回訓練をしている。職員もそれぞれが対応できるようにしている。	防災・避難訓練は年2回、日中想定で実施しています。訓練には運営推進会議の自治会長を通じて、近隣の住民の参加の協力を呼びかけています。非常災害用の食料・飲料水は3日分程度備蓄しています。	防災・避難訓練は、日中想定と夜間想定を含めた訓練を行い、更に充実した災害対策訓練も期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを利用して常に研修している。認知症という病気の理解を深め否定をせずその方の思いに寄り添う介護ができるように努力している。大きな声で「トイレですか」とは言わず耳元でそっとお伝えするなど気を付けている	職員は入職時に、守秘義務やプライバシーに関する勉強をしています。職員は日頃より利用者一人ひとりの人格を尊重し、「です」「ます」などの丁寧な言葉遣いに心掛けています。個人情報を含む書類は、施錠のできる書庫に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけでなく基本はご意向を伺うようにしている。飲み物も温かい・冷たいものがいいか伺うようにしている。重度化になってもその方の思いを大切にするため、言葉はしっかりと受け止めて記録に残すなど共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を優先しないように入居者本位で対応するように心がけている。共同生活の場でもあるので他の方とのバランスもみながら調整対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理髪は2か月に1回行っている。また近くの美容院にもお連れしパーマ・毛染めなどしていただいている。季節にあったその人らしい着こなしになるよう援助している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片づけは入居者様とおしゃべりしながら一緒に行っている。季節感のある献立を提供している。残すことの多い献立は見直している。	調理専門の職員が献立を考え、食材を購入し、美味しい食事の提供に努めています。利用者は職員と一緒に盛り付け、食器拭き、米研ぎ、味噌汁づくりなどを行っています。誕生日には手作りのケーキで祝っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を活用している。体重の増減・体調の変化にあわせて量や食事の内容も変えて対応している。一人ではできない方にはその人のペースに合わせてお手伝いしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず口腔ケアのお声掛けをし、一人で難しい方は介助し実施している。また訪問歯科の利用もあり十分に気を付けている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレでの排泄をしていたくよう声掛け誘導している。排泄チェック表を確認しながら排泄リズムの把握に努めている。夜間も安眠妨害にならない程度にお声掛けしている	排泄チェック表により、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導の支援をしています。声かけは他の人に聞こえないように、小声で伝えています。トイレ誘導により、利用者のパッド使用量が減るなど、自立排泄に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事の提供、牛乳・ヨーグルトなどの提供、腹部マッサージ、毎日のラジオ体操や廊下歩行などの運動などで予防に努めている。また申し送りをし、排便のコントロール（屯用薬）もしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めていなく入居者様の状態や気分に合わせて対応している。また同性介助を基本にし、遅番・夜勤対応で夜入浴していただいているときもある	入浴は、基本的には週2回程度入っています。入浴拒否の人には、声かけする人や時間をずらすなど工夫をしています。冬至の時期にはゆず湯、子どもの日には菖蒲湯など、季節を感じられる入浴も楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音や照明など環境には十分気を配っている。就寝時間も個別に対応している。座っている時間が長くないよう適宜短時間の休息をとっていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬の無いようにダブルチェックをしている。大体だどなたが何を服用しているか把握するようにしている。薬に変更があるときは状態の変化にも気を付け、家族・医療職にも繋げ情報の共有をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ禍で今は出来て居ないが歌や麻雀の好きな方は近隣の方たちのボランティアによって参加していただいている。好きなものをスーパーに買い物に行ったり、主婦をしていた方には家事作業を出来るだけ一緒に行うようにしている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で今は出来て居ないが初詣・節分・花見・鯉幟・菖蒲・夏祭り・菊展など出かけ鑑賞したりしていた。ご家族の協力のもと選挙の投票に行かれた方もいる。気分転換に屋上に行ったりもしている。	天気の良い日には、事業所周辺を散歩しています。屋上でプランターにキュウリやなすの野菜を栽培し水やりもしています。職員と一緒にスーパーマーケットへ食材の買い物にも行っています。花見や相模川の鯉のぼり、阿波踊りなどの見物に出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理している。職員と一緒に買い物に行き使うことを支援している。お金を持っていないと不安な方にはご家族から承諾を頂き所持していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙を書いていたがどうしても出来ずにいる。入電時にはおつなぎしている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	母の日にはカーネーションや夏野菜の栽培（水やりを一緒に行う）等、季節感を取り入れる工夫をしている。気分転換に屋上にお連れしている。トイレは一日3回の清掃、共用の空間は毎日清掃をしている。年に一回は業者による清掃している	リビングはすっきりと清潔に保たれるようにし、温湿度や換気にも配慮しています。季節のカレンダーを貼り、花や雛飾り、七夕飾り、クリスマスツリーなどの飾り付けをしています。利用者は気の合う人の隣に座り会話を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、食席など気の合う方同士となるよう配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れている家具や馴染みのものをお持ちいただいている。中には仏壇をお持ちいただいたり、昔描いた油絵などの作品、御家族の写真など飾っている方もいる	居室には、エアコン、防災カーテン、クローゼットなどが備え付けられています。利用者は、テレビやラジオを置き、また油絵などそれぞれの馴染みのものや、家族の写真を飾り、その人らしく居心地よく過ごせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来ること・わかることを職員が一人一人理解し過剰な介護にならないようにしている。また手すりの設置、トイレはご自分で行けるように大きく表示したりしている		

事業所名	グループホーム 東林間 輝
ユニット名	3F

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	輝の理念である「1. あなたの笑顔がみたいから」「2. 真心と安心のある介護をめざして」「3. 地域に根ざす家族愛」を各ユニットに掲示し職員がいつでも理念に基づき自分の行動に照らし合わせながら従事している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会、東林間商店振興組合に加入している。またコロナ禍になる前は「サロン輝」を開催し地域の方々にも参加いただき、商店街のゴミ拾いにも参加していた。残念ながら今はできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍になる前は毎年、地域包括主催のグループホーム見学会を兼ねて認知症に対する支援などをご説明していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため運営推進会議は行っていない。そのため、施設内の報告を会員には手紙で行っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険課、福祉基盤課及び生活支援課等の行政窓口との連絡を密にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	委員会4回と一般研修2回を定期的に行い身体拘束について理解を深め日常のスピーチロックも含め身体拘束をしないケアに努めている。玄関は外に出るとすぐ階段であり又降りた先も車通りの多い所である為、この対応も身体拘束になることも意識しているが安全面を考慮しすぐに開錠出来るもので施錠している		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修を実施し虐待防止を学び、注意を払っている。また報・連・相が大切であることを各職員に徹底している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修のみならず外部研修に参加することで職員の理解を深めている。身内のいない入居者様には成年後見人制度を申請利用した。また、利用しているご家族の相談にのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者様、ご家族に対し十分な説明を行い契約している。改定時には家族会にて説明し、欠席者には文書で知らせていたがコロナ禍のため文書を送付し同意を頂いている（口腔ケア加算）		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会は年に一回開催していたがコロナ禍の為開催出来ていない。家族会では意見交換の場を設け、改善できる点は改善していた。計画作成者が家族と面談時に説明をしご家族の意見を取り入れている。ご家族へ手紙とメールのやり取りをして意見交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議、フロア会議、個人面談において職員の意見・提案を聞いている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回個人面談を実施。また状況に合わせて随時面談を行い環境整備に取り組んでいる。勤務状況の把握は一日一回現場に入り確認している。有給休暇に関しては全職員が習得できる環境になるよう心掛けている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修にオンラインで積極的に参加し人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在は開催していないが、グループホーム連絡会に参加し情報交換と質の向上に努めていた。またグループホーム連絡会では見学会も実施していた。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員が事前に訪問した際、本人の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている。経過とともに改善すべきところは改善し希望に沿ったサービスに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談時に御家族の意向を確認し要望に沿った介護に努めている。また出来ること出来ないこともお伝えし誤解が生じないように説明している。そういう中で理解し信頼が深まっていると感じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で収集した情報を活かし介護サービスに反映させるだけではなくインフォーマルサービス等の確認も行っている。経過とともに改善すべき点は改善している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の過ごしてきた環境を出来る限り維持できるサービスに努めている。ご協力いただける部分は協力いただく様お願いし男性・女性に関係なく持っている力を発揮していただくようにかかわっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会や面会にいらしたとき、日常生活を見ていただきながら楽しいエピソードなどをお伝えしている。また御家族との会話に介入するなどし御家族が安心して帰られるようにしている。病院の受診などは可能な範囲でご協力いただくように相談している		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ対策をしっかりと行い、馴染みの関係が絶たないように協力している。ご友人来訪時には並んで記念写真を撮ったり外食の支援をしている。生活歴や会話などを参考に大切な場所にはお連れしたい（お墓参り等）がなかなか実現できていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	要介護1から要介護5の入居様様が各々孤立しないように席の工夫などを行っている。また馬鹿にしたりされたりしないよう職員が仲介して入居様同士の間を繋ぎ合わせる機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も御家族から相談・報告のご連絡がある。その後の特養・入院先にご様子を見に行ったりしている。また葬儀にも参列させていただいている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関りの中からその方の思いや希望をくみ取るようにしている、職員・御家族と情報の共有をし職員本位のものにならないように気を付けている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各入居様様の暮らしの希望、意向を把握し、職員は情報の共有をして生活リズムが変わらぬように努力している。手作りヨーグルトや仏壇のお水替え等ご本人も一緒に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタル(体温・血圧・SPO ₂)をとっている。一日の過ごし方など、朝夕申し送りをして現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護職員いの思い込みとならないようにフローア会議・ショートカンファで話し合っている。ご家族・医療関係者の意見も反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子は個別の記録をしており、PDCAなどヒントがあるときにアンダーラインを引いている。入居者様の状態によっては別の記録用紙に一時的に代えて「見える化」にし情報共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族に代わり通院介助・車での送迎を行っている。お孫様の結婚式にも同行し参列頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	花見や阿波踊りなどのイベントに参加できるよう地域のボランティアの協力を得ながら支援している。地域包括で行われている100歳体操に参加していた。コロナ禍が落ち着いたら継続して行きたい		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医往診時には毎日のバイタル・食事飲水量・トイレ回数等記入してある表を見ていただき普段の生活・身体面等様々なことを報告をしている。状況、状態によっては他医療機関へ早期につなげるなどご家族様からは安心していただいている。主治医は夜間・早朝にも拘わらず迅速に対応をしてくださっている。そのため、ご家族の意向に沿ったご本人様らしいお看取りもできた		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24H対応の訪問看護とクリニックを利用している。看護職員には関りの中での精神的・身体的等の変った点などの気づき、薬の変更等を含め報告相談している。医療と介護の連携が取れるように医療連絡ノートを記入し情報の共有をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は御家族だけではなく日常の様子がわかる職員が付き添いをしている。また介護サマリーなどの提出もしている。お見舞いに行き病院関係者からの情報収集し輝の主治医にも報告している。出来るだけ輝での生活に戻れるように支援している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の在り方について意向を伺うようにしているが今後全員に聞く必要がある。意向に沿いながら輝として出来ること出来ないことを説明し、輝・ご家族・医療職とチームで支援できるように取り組んでいる。今年の6月にお看取りを行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒事故や急変時に行わなければならないことや救急車要請時の報告の仕方・持ち物など、いざというときに対応できるように確認している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年春・秋の2回訓練をしている。職員もそれぞれが対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを利用して常に研修している。認知症という病気の理解を深め否定をせずその方の思いに寄り添う介護ができるように努力している。大きな声で「トイレですか」とは言わず耳元でそっとお伝えするなど気を付けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけではなく基本はご意向を伺うようにしている。飲み物も温かい・冷たいものがいいか伺うようにしている。重度化になってもその方の思いを大切にするため、言葉はしっかりと受け止めて記録に残すなど共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を優先しないように入居者本位で対応するように心がけている。共同生活の場でもあるので他の方とのバランスもみながら調整対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理髪は2か月に1回行っている。また近くの美容院にもお連れしパーマ・毛染めなどしていただいている。季節にあったその人らしい着こなしになるよう援助している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片づけは入居者様とおしゃべりしながら一緒に行っている。季節感のある献立を提供している。残すことの多い献立は見直している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を活用している。体重の増減・体調の変化にあわせて量や食事の内容も変えて対応している。一人ではできない方にはその人のペースに合わせてお手伝いしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず口腔ケアのお声掛けをし、一人で難しい方は介助し実施している。また訪問歯科の利用もあり十分に気を付けている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレでの排泄をしていただくよう声掛け誘導している。排泄チェック表を確認しながら排泄リズムの把握に努めている。夜間も安眠妨害にならない程度にお声掛けしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事の提供、牛乳・ヨーグルトなどの提供、腹部マッサージ、毎日のラジオ体操や廊下歩行などの運動などで予防に努めている。また申し送りをし、排便のコントロール（屯用薬）もしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めていなく入居者様の状態や気分に合わせて対応している。また同性介助を基本にし、遅番・夜勤対応で夜入浴していただいているときもある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音や照明など環境には十分気を配っている。就寝時間も個別で対応している。座っている時間が長くないよう適宜短時間の休息をとっていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬の無いようにダブルチェックをしている。大体だかどなたが何を服用しているか把握するようにしている。薬に変更があるときは状態の変化にも気を付け、家族・医療職にも繋げ情報の共有をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ禍で今は出来て居ないが歌や麻雀の好きな方は近隣の方たちのボランティアによって参加していただいている。好きなものをスーパーに買い物に行ったり、主婦をしていた方には家事作業を出来るだけ一緒に行うようにしている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で今は出来て居ないが初詣・節分・花見・鯉幟・菖蒲・夏祭り・菊展など出かけ鑑賞したりしていた。ご家族の協力のもと選挙の投票に行かれた方もいる。気分転換に屋上に行ったりもしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理している。職員と一緒に買い物に行き使うことを支援している。お金を持っていないと不安な方にはご家族から承諾を頂き所持していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙を書いていただこうとするが出来ずにいる。入電時にはおつなぎしている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	母の日にはカーネーションや夏野菜の栽培（水やりを一緒に行う）等、季節感を取り入れる工夫をしている。気分転換に屋上にお連れしている。トイレは一日3回の清掃、共用の空間は毎日清掃をしている。年に一回は業者による清掃している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、食席など気の合う方同士となるよう配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れている家具や馴染みのものをお持ちいただいている。中には仏壇をお持ちいただいたり、昔描いた油絵などの作品、御家族の写真など飾っている方もいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来ること・わかることを職員が一人一人理解し過剰な介護にならないようにしている。また手すりの設置、トイレはご自分で行けるように大きく表示したりしている		

2021年度

事業所名 グループホーム 東林間 輝

作成日 2021年 10 月 7 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	毎年4月と9月に防災、避難訓練をしているが夜間を想定した訓練が今年は出来て居ない	年2回の防災、避難訓練の継続、そのうち1回は夜間の想定した訓練を行う	先月、9月15日に消防署のご協力を頂き日中の避難訓練を行った。11月に夜間を想定した訓練を行う	2ヶ月
2	5	現在、身体を縛るなどの拘束はしていないがスピーチロックと思われる言動がある	今後も身体拘束について理解を深める研修の継続、スピーチロックも含め身体拘束をしないケアを行う	具体例を出してどのようなものがスピーチロック、身体拘束にあたるの意見を出し合う。セルフチェック表を使って自身の行動を振り返る。また、危険な行動でない限りは止めずに見守るようにする	3ヶ月
3	38	職員の都合を優先しているような場面がみられることがある	職員の都合を優先しないように入居者本位で対応するようにしていく	業務優先ではなく入居者のペースに合わせようとする。入居者の意向を聞く、思いに寄り添う様にする、時間の変更など柔軟な対応する	2ヶ月
4	27	個別記録の大切さが理解できていない職員がいる。気付きや工夫を持って関わっているのに記録に欠けている	今後も気付きや工夫などの関りを持ってケアにあたること、就業時間内に記録を書き終える。その記録、情報をケアプランにあげ情報の共有、ケアに繋げるようにする。	気付きや工夫など意図的な関りをもってケアに繋げていくこと関われば関わるほど記録が多くなるため職員間で声掛けをしあいながら記録の時間を作るようにする。その記録をケアプランにあげ情報の共有、ケアに繋げるようにする	1ヶ月
5					ヶ月